

受験番号	番
------	---

令和2年度

精道三川台高等学校 特別入学試験問題

国 語

注 意

- 1 「始め」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 解答用紙は中にはさんであります。
- 3 「始め」の合図があったら、まず、受験番号を問題冊子および解答用紙の受験番号欄に記入しなさい。
- 4 問題は \square ～ \square で、1ページから13ページまであります。
- 5 答えは、すべて解答用紙に記入しなさい。
- 6 「やめ」の合図で、鉛筆を置きなさい。
- 7 試験終了後は、問題冊子および解答用紙を机の上に置いたまま退出しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

※¹直は主人公で中学三年生。野球部の四番打者。父の死後残された田んぼを母と二人で耕すことになり、部活動との両立を
目指している。

「ところで、おまえ、しってるか。」

※²秀士は声をひそめて「ほらっ」と、窓ぎわの方を目でうながした。

窓ぎわの席には※³渚がいた。数人の女子いつものように話している。ところが、驚いたことに、渚の右腕はギブスで
② コテイされ、布でつるされていた。

「きのうの部活中、ハードルでこけたらしい。救急車で病院だ。骨折らしい。」
「へえ。」

びっくりして渚を見た。

(あいつ、大会大丈夫なのか?)

いくら渚でも、骨折した腕では走れないはずだ。大会まであと三週間、けがは治るのか。

けれど、渚はいつもと変わらずしゃべったり、大声で笑ったりしている。けがのことなんかぜんぜん気にもしていないようだ
った。

(気楽なやつだな)

渚の明るさに驚いた。

放課後、さっそく秀士と翔太が部活の誘いに来た。

雨だから、今日の練習場所は体育館下の駐車場だ。

「きょう、直の練習場はこっちだ。」

部活開始の③ エンジンの時に、キャプテンの秀士がわざわざ仲間にも告げるように言った。おれに気を使つてのことだ。野球
部の仲間は当たり前のように「おつす」と④ アイサツをかわした。※⁴万田先生がみんなにおれのことを話してくれているのが
わかった。

ダッシュ、筋トレ、キャッチボール、守備練習、素振り、久しぶりのメニューをこなす。汗がふき出る。⑤ やっぱり野球仲間
とかく汗は、田んぼ仕事でかく汗とは違うよさがある。

前に部活に出たのはちょうど十日前だ。それだけの間にも、みんなの動きは早くなったような気がする。置いていかれそうな気持ちをもふつ切って、おれは動きまわった。特に練習が減ってしまったている守備練習は、みんなが休んでいる時間にも、頼んでやらせてもらった。

「バットの振りは、安定してきたな。」

途中からやって来た万田先生が、おれの素振りをしばらく見てから **A** 背中をたたいて向こうに行った。

素振りには、つかんたいらで毎日二百回以上はやってきた。耕うん機の運転の (エ) セイカもあるのか、あの重いバットでも腰がぶれなくなった気がする。万田先生に それを認めてもらえて、^② 少しだけほっとした。

となりで[※]、遼平が

「おれも負けんぞ。」

と言って、バットを振った。空気を鋭く切る音が鳴った。

「おれもだ。」

おれのバットからもいい音が鳴った。

おれたちは競うように素振りを続けた。

休憩時間になり、汗をふこうとして、タオルがないのに気づいた。

(しまった。教室だ。)

おれは廊下を走り、教室に戻った。

放課後の教室棟は **B** していた。雨も降っているからうす暗い。

急いで教室に飛びこんだら、「きやつ」という悲鳴が上がった。

「びっくりするじゃん。」

窓辺の席に座っていた渚が、驚いたようにこつちを向いている。窓を背にしているので、顔が影になって見えづらいけど、目が泣きはらしたように赤くなって見えた。

(あれ…)

と思っただけ、おれはさりげなく渚から目をそらした。

「ちよつと、タオル忘れてな…。」

と、おれは自分のロッカーに行つてタオルをとった。

「そんじゃ。」

と言つて、教室から出ようとしたら、

「きょうは、こっち？」

と渚が声をかけてきた。

「あ…？」

「すごいよね…。」

「……………」

「家の田んぼもやりながら野球もがんばってる。」

渚がおれを見つめた。やはり泣いていたような目だった。

「あわれんで見られたくないな。」

おれはちよつと目をふせた。

「あわれんでなんかいない。」

渚はまっすぐにおれを見た。

「強いなって、思ってる。」

おれはちよつと赤くなった。何だか変な気分だった。

「だいたい、いつもの渚と感じが違う。」

「どしたんだ、おまえ。なんか元氣ないな。」

こんな渚を見たのは初めてだった。

「へんなどこ、見られちゃったね…。」

渚は力なく笑つて、目にたまっていた涙を左腕の制服の袖でぬぐった。右腕はギブスで固められ、白い布でつるされたままだ。

「それ、だいぶかかるのか？」

おれは、遠慮がちに渚のつるされた右腕に目をやった。

「ふふ、絶望…。」

と、渚は笑おうとしたようだった。でも、うまく笑えず、表情がこわばった。

「じよーだん、だよ。」

③ 渚はまた笑おうとした。でも、やっぱり笑顔はつくれなかった。

「ひと月もたてば治るって。でも、私にとっては絶望。最後の市大会には間に合わない。ぎりぎり間に合ったとしても、ほとん

ど練習もできない。」

渚の大きな目に涙がたまっていくのが見えた。

たとえ県大会での活躍を期待される実力があっても、その予選である市大会に出られなかったら、地区大会、さらに県大会への出場は閉ざされてしまう。

(やっぱり、渚、落ちこんでたんだ…)

朝、明るくふるまっていた渚の様子を思い出した。みんなには、せいっぱい元気に見せていただけだったんだ。

「左手じゃ、勉強もできない。」

渚は左手に持っていたシャーペンを投げ出すように、机の上に広げていた英語の教科書に転がした。シャーペンは机の端から転げ落ち、床にはねてかわいた音を立てた。渚は④それを拾おうともしなかった。

おれは突っ立ったまま黙っていた。

「お父さんは、ちようどいい機会だから陸上やめろって。どっちみち、陸上で大学まで行けるはずもないんだから、勉強に切りかえろだつて。お父さん、私が陸上やること、よく思っていないんだ。」

ふうと、渚の口からふるえるようなため息がもれた。

「……………」

「わたし今、反抗期。お父さんとは口きかない。」

渚はちよつとすねたような表情を見せた。

「直はさ、親に反抗ってしない？」

そんなことあらたまつて考えたこともなかったから、おれはとまどった。

渚に真剣に見つめられて答ええないわけにもいかず、「まあ、たまにはあるかな、かあさんになら…。」と、首をかしげながら言った。

「とうさんには、したくてもできない。」
と、笑った。

⑤渚は、はっとした顔になった。

「あっ、ごめん」

と顔を赤らめた。

「べつに、なんでもないさ。」

おれは C 言った。

「けど、本気でやりたいことなら、親もわかってくれると思うな。」

「本気でやりたいこと……。」

と、つぶやいて渚は床を見つめるようにした。

〈横沢彰「スウィング」〉

※1 直：主人公で中学三年生。野球部の四番打者。父の死後残された田んぼを母と二人で耕すことになり、野球部活動との両立を目指してがんばっている。

※2 秀士：直の親友で、野球部主将。

※3 渚：直の幼なじみ。陸上部のエース。

※4 万田先生：野球部顧問。生徒思いで、直の良き理解者。

※5 遼平：野球部仲間。良きライバル。

問一 Ⅱ線部(ア)～(エ)のカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 A、B、Cに適する語を、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ぽんと イ さらりと ウ はつと エ きゅつと オ ひっそりと

問三 Ⅰ線部①の二つの「汗」の違いはどういうものか、説明しなさい。

問四 Ⅰ線部②「少しだけほつとした」とあるが、その理由を四十字以内で説明しなさい。

問五 Ⅰ線部③の時の、渚の気持ちを説明しなさい。

問六 Ⅰ線部④の理由を三十字以内で説明しなさい。

問七 Ⅰ線部⑤の理由を四十字以内で説明しなさい。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日本経済の将来について考えてみることにしよう。戦後①復興とそれに続く高度経済成長が^{※1}終焉し、1970年代に入ると、がむしやかな成長至上主義は姿を消した。これは先進国においては歴史の必然である。しかし、そのことと、文字どおりのゼロ成長論は別だ。あたかも人にとつて一点でいつまでもじつと静止しているよりも、^①それぞれ自分に合ったペースで行っているほうが心地よいのと同じように、成熟した先進国においても、それぞれの経済に合った経済成長のほうが、ゼロ成長よりはるかに自然だ。ゼロ成長の下では現役世代とりわけ若い人たちの雇用は劣化していかざるをえない。そうした観点からもやはり経済成長は必要だ。これが^②私の考えである。

日本の平均寿命、男性80・5歳、女性86・8歳（2015年）は、確かに生物学的に見た限界に近づきつつあるのかもしれない。^A、なお残る課題として、「健康寿命」、「生活の質」がある。たとえ21世紀には、先進国で20世紀に「生じたような平均寿命の延長がもはや見られないことになるとしても、すでに現実になりつつある超高齢社会において人々が「人間らしく」生きていくためには、今なお^③膨大な^{※2}プロダクト・イノベーションを必要としている。超高齢社会においては、医療・介護は言うまでもなく、住宅、交通、流通、さらに1本の筆記具から都市まですべてが変わらざるをえないからである。それは好むと好まざるとにかかわらず、経済成長を通してのみ実現されるものである。逆に、先進国の経済成長を生み出す源泉は、そうしたイノベーションである。

日本の「労働力人口」は、1988年の6793万人をピークに、「人口」に10年ほど先行して減少に転じた。その後、女性の労働市場への参加率が高まったことなどにより労働力人口が増えた年もあるが、長期的には将来年率0・6%ほどのペースで減少を続けていく。多くの経済学者は日本経済の「実力」すなわち「^④潜在成長率」は0・5%程度しかないと言うが、^③私は1・5%程度の実質経済成長は可能だと考えている。そのためには年率2・0%ほどの労働生産性の伸びが必要だ。それが実現すれば、「1人当たりGDP」ないし「1人当たり所得」は、年率2・0%ほど成長する。2%で成長するものは35年で2倍になる。したがって、現在30歳の人の生涯所得は、現在65歳の人の生涯所得の2倍になるはずだ。

現状はどうだろうか。2000年から2014年まで、^{※3}リーマン・ブラザーズが^{※4}破綻した直後の世界同時不況5・5%

のマイナス成長を記録した2009年を除く14年間の平均について見ると、労働力人口の減少率は平均年率マイナス0・2%だ。一方、同じ14年間の平均経済成長率はプラス1・3%である。悪い悪いと言われてきたにもかかわらず、労働生産性は年平均1・5%上昇してきた。2%は決して不可能な数字ではない。

経済学を知っている人にイノベーションと言うと、もっぱらそれを経済の^{※5}サプライ・サイド、^④供給側の現象だと考えている人が多い。経済の「実力」ともいえる「潜在成長率」という概念も、労働や資本が将来どれだけ伸びるかをもっぱらサプライ・サイドで積み上げていくのがスタンダードな手法だ。しかし、イノベーション、とりわけ新しいモノやサービスを生み出す「プロダクト・イノベーション」は、本章で詳しく説明したとおり、「需要」と密接な関係を持っている。

問題は、日本の企業が潜在的な需要に応えるようなプロダクト・イノベーションを成しうるか、である。^⑤35年後の日本人は、現在の2倍という高い購買力を持つている可能性が高い。そうした高い購買力を持つ彼らは、いったいどのようなモノやサービスを求めるのか。

超高齢化社会の姿は誰にも正確には分からない。しかし、社会のすべてが変わると言ってもよいような大きな変化が起きることとは間違いない。^⑥それは数え切れない大小のイノベーションを通して実現される。所得水準が高く、マーケットのサイズが大きく、何よりも超高齢化という問題に直面している日本経済は、実は日本の企業にとって絶好の「実験場」を提供していると言っても過言ではない。人口が減っていく日本国内のマーケットに未来はない、という声をよく耳にするが、超高齢化社会に向けたイノベーションにとって、日本経済は大きな可能性を秘めているのである。

〈吉川洋「人口と日本経済」〉

- ※1 終焉：生命が終わること。またその時。
- ※2 プロダクト・イノベーション：既存の製品の延長線上にはない、革新的、画期的な製品を生み出すこと。
- ※3 リーマン・ブラザーズ：かつてアメリカのニューヨークに本社を置いていた大手投資銀行グループ。
- ※4 破綻：物事が、修復しようがないほどうまく行かなくなること。行きづまること。
- ※5 サプライ・サイド：供給側のこと。サプライ・サイド経済学とは、供給側の資源を公共部門から民間部門へ、消費から投資

へ向けることで、生産力の強化と物価の安定が達成されると論ずる経済学理論。

問一 Ⅱ線部(ア) ⅴ(ウ)の漢字の読みを答えなさい。

問二 Ⅰ線部①「それぞれ自分に合ったペースで歩行しているほうが心地よいのと同じように」とありますが、文に用いられている表現技法を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 倒置法 イ 直喩法 ウ 隠喩法 エ 擬人法

問三 Ⅰ線部②「私の考え」とありますが、その考えを、五十字以内で答えなさい。

問四 空欄 A に入る言葉を、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ しかし ウ それとも エ つまり

問五 Ⅰ線部③「私は1・5%程度の実質経済成長は可能だと考えている」とありますが、そのことを実現するのに不可欠なことを、本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。ただし、「・」「%」は一字とする。

問六 Ⅰ線部④「供給」の対義語を、本文中から二字で抜き出して答えなさい。

問七 Ⅰ線部⑤「35年後の日本人は、現在の2倍という高い購買力を持っている可能性が高い」とありますが、そう言える理由を四十字以内で答えなさい。

問八 Ⅰ線部⑥「それ」が指す言葉を、本文中から五字で抜き出して答えなさい。

問九 本文の内容と合致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本経済の将来は明るく、高度経済成長後も成長至上主義をもとに成長を続けている。
- イ 先進国の経済成長を生み出すもとなるのが平均寿命であり、さらに延び続けている。
- ウ 日本の労働力人口は減少を続けていくために、実質の経済成長は0・5%程度である。
- エ 超高齢化社会は日本経済に試す場を与えており、日本経済に大きな可能性をもたらす。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中それほど遠くない昔ごろ、伊豆の国のある所の地頭に、若き男ありけり。狩りしけるついでに、猿を一匹

生け捕りにして、^①これを縛りて家の柱に結び付けたりけるを、彼の母の^{※1}尼公にこう、慈悲ある

人にて、「ああかわいそうな、どんなにつらいことだろうあらいとほし、いかにわびしかるらん。あれ解き許して、山へやれ。」と言へども、

^{※2}郎等、冠者ばら、主の心を知りて、^②おそれてこれを解かず。「^③いでさらば我解かん。」

とて、これを解き許して、山へやりぬ。これは春の事なりけるに、夏、^{※3}覆盆子いちじのさかり

に、覆盆子を柏の葉につつみて、隙をうかがひて、^④この猿、尼公にわたしけり。あまりに

^⑤あはれに、いとほしく思ひて、布の袋に、大豆を入れて、猿にとらせつ。与えた

(沙石集)

※1 尼公…尼となった高貴な女性

※2 郎等、冠者ばら…家来や召使いの若者たち

※3 覆盆子…とつくりいちごといういちごの一種

問一 ー線部①「これ」の指す内容を十五字以内の現代語で説明しなさい。

問二 ー線部②「おそれてこれを解かず」について答えなさい。

- (1) この行動はだれの行動か、文中から抜き出して答えなさい。
(2) なぜこのような行動を取ったのか、理由を説明しなさい。

問三 ー線部③「いでさらば我解かん(さあそれでは私が解こう)」の「我」とはだれのことか、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 若き男 イ 尼公 ウ 郎等、冠者ばら エ 猿

問四 ー線部④「この猿、尼公にわたしけり」とあるが、猿がこのような行動を取ったのはなぜか。二十字以内で説明しなさい。

問五 ー線部⑤「あはれに、いとほしく思ひて(かわいらしく、いとしく思つて)」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で答えなさい。

問六 本文の内容に合うものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 地頭をしていた若い男は、猿を捕まえるために伊豆に出かけた。
イ 若い男の家来たちは、尼公の命令を聞かずに猿を縛り付けた。
ウ 尼公は、猿を縛っていた縄を解いて山へ逃がしてやった。
エ 縄を解いてもらった猿は、そのお札に大豆を持ってきた。

四 次の二つの新聞記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

参院選の18、19歳の投票率（抽出調査、速報値）は31・33%で、全体の48・80%を大きく下回った。選挙権年齢が「18歳以上」に引き下げられた後、初の国政選挙だった前回2016年参院選の45・45%（同）、17年衆院選の41・51%（同）と比べても大幅に低下した。総務省が23日発表した。

調査は、全国の4万7044投票区のうち、全47都道府県から4カ所ずつ計188投票区を抽出して調べた。18歳は34・68%（男性33・38%、女性36・07%）、19歳は28・05%（男性26・79%、女性29・43%）だった。

（2019・7・23 「朝日新聞DIGITAL」）

総務省は22日午前、第25回参院選の投票率（選挙区選）が48・80%で確定し、前回2016年参院選の54・70%を5・90ポイント下回ったと発表した。衆院選を含め、全国規模の国政選として過去最低だった1995年の参院選（44・52%）以来24年ぶりに50%を割り、同年に次ぐ低投票率となった。

男性の投票率は49・42%で16年参院選より5・71ポイント低く、女性の投票率も48・22%で6・08ポイント低かった。

都道府県別の投票率は、16年参院選より0・82ポイント上昇した高知県（46・34%）を除く46都道府県で下落した。下げ幅は5県で10ポイントを超え、最も下げ幅が大きかったのは青森県で、投票率は16年参院選より12・37ポイント低い42・94%だった。

（2019・7・22 「読売新聞」）

問一 2019年参院選の18、19歳の投票率は、2017年衆院選と比べておよそ何ポイント下回りましたか。小数第一位を四捨五入して整数で答えなさい。

問二 次のうち、二つの新聞記事で述べていることとして正しくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 全国規模の国政選の投票率としては1995年の参院選が過去最低である。
- イ 2019年参院選における19歳女性の投票率は、30%を下回っている。
- ウ 2016年参院選における男性全体の投票率は、およそ45%であった。
- エ 2019年参院選における都道府県別の投票率では、高知県のみが上昇した。

問三 国政選挙における若者の投票率の低さが問題となっています。次の文章を読んで、それに対するあなたの考えを一五〇字以上二〇〇字以内で書きなさい。ただし、一マス下げて書き始める等、正しい原稿用紙の使い方にそって書きなさい。

私は若者の投票率を上げるため、選挙に行かない人たちに罰を与えるべきだと思います。具体的には投票に行かなかった人から罰金として一万円を徴収するのです。そうすれば、みんな一万円を払うのが嫌で選挙に行くことになり、投票率が上がると思っています。悪いことをしたら罰を与えるのは当たり前です。選挙に行かないのは悪いことなので罰を与えて当然だと思います。

受験番号

令 2 高 (1)

国 語

解答用紙

一

問 一	問 二	問 三	問 四	問 五	問 六	問 七
(ア)	A					
	B					
(イ)	C					
(ウ)						
(エ)	(フ)					

二

問 一	問 二	問 三	問 四	問 五	問 六	問 七	問 八	問 九
(ア)								
(イ)								
(ウ)								

三

問 一	問 二	問 三	問 四	問 五	問 六
	(1)	(2)			

四

問 一	問 二	問 三

150

200

国 語

解答用紙

一

問一	(ア)	固定	(イ)	円陣	(ウ)	挨拶	(エ)	成果
問二	A	ア	B	オ	C	イ		
問三	仕事でかく汗は、労働の責任感、緊張からのものだが、野球部の練習の汗は好きなことを思い切りやれる爽快(そうかい)さがある。同趣旨可	万田先生に素振りや農作業などの努力の成果	「絶望」という本音を言ってしまった、じょーだんですまそうとしたが、やはり、つらさ、悲しみを隠せなかった。	落ちてこみ、もうどうでもいいと投げやりにな	自分と父の家庭事情を忘れていたから、父の	直の家庭事情を心に		
問四	が出ていることと認めてもえたら、							
問五								
問六								
問七								

二

問一	(ア)	ふっこう	(イ)	ぼうだい	(ウ)	せんざい
問二	イ					
問三	てしまうの、先進国にわたちの雇用は劣化し	ゼ口成長の下では若い人たちの雇用は劣化し	必要であること、先進国にわたちの雇用は劣化し			
問四						
問五	年率2・0%ほどの労働生産性の伸び					
問六	需要					
問七	現材30歳の人の生涯所得は、現在6・5歳の					
問八	大人の生涯所得の2倍になるはずだが、					
問九	大きな変化					

三

問一	狩りに出かけた時に捕まえた猿。
問二	(1) 郎等、冠者ばら (2) 主人は逃がしたくないと思っているだろうと考えたから。
問三	イ
問四	助けてもらったお礼をしたいと考えたから。
問五	あわれに、いとおしくおもいて
問六	ウ

四

問一	10
問二	ウ
問三	ぼくは罰を与えらるべきではないと思います。理由は二つあります。一つ目は、罰を与えて無理矢理投票に行かせるのも、あまり考えずに投票したり、ふざけて投票したりする人がいると思うからです。そのような投票が政治に影響を与える方が、二つ目は、急な病気やケガなどやむを得ない事情で投票できない人もいます。思っているからです。(185字)